

博士課程教育リーディングプログラム現地視察報告書(平成25年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

プログラム名称	災害看護グローバルリーダー養成プログラム	申請大学名	高知県立大学
申請大学長名	南 裕子		
プログラム責任者	野嶋 佐由美		
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5大学での共同教育課程である博士課程の編成という挑戦の、はじめの一步ができつつある。 ・5大学の連携による共同教育課程の編成については、2大学の学部4年生へのアンケートによれば、3割の学生が共同教育課程(本プログラム)に入学を希望しているとのことであり、5年間は問題なく10名/年を確保できると思われる。 ・地理的に離れた5大学の共同教育課程の授業としてテレビ会議システムを用いた双方向の集合的教育が予定され、トラブル対応などの工夫もなされており、効果が期待できる。 ・シミュレーションラボでの実践教育は手堅く準備されている。ただし、教育者目線の印象がある。学生目線で今までとどう違うのかを発信することが望まれる。 <p>2. 意見(改善を要する点、実施した助言等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共同教育課程を新設するとはいえ、学生は各大学に所属することから、他の一般学生との関係で、自分の所属がどこなのか不安に陥らないよう、アイデンティティの確保に配慮が必要である。 ・キャリアパスについて、本プログラムは実践型のリーダー養成を使命としているが、学生がそのことを理解し、修了生が活躍する場を明確化することが、学生の確保にとって重要である。 ・国際連携について、留学生の受け入れ体制に課題がある。海外の大学との連携大学院の話を実現するために、英語による授業を実施する必要がある。また、国際化について、ペンシルベニア大学の教授を編集長とした国際雑誌の発行への参画が考えられており期待できるが、まだ漠然としている。学生の国際交流を進めるなど、より積極的な取組が望まれる。 ・グローバルリーダー養成のための国際連携体制の整備(海外提携校との具体的な教育プログラム)を急ぎおこなうべきである。 ・社会人入学や留学生の受け入れも含めて考えるのが望ましい。 ・災害看護は実践の蓄積が重要であるが、学位取得後のキャリアパスを明確に描けるようにするために、災害看護学を体系化し、学問を育てていき、その立ち位置をしっかりとさせることが不可欠である。また、5大学の既存の知見等が十分生かされるよう、さらに交流を深め、教育プログラムに生かす必要がある。 ・東日本大震災の発生を受け、大規模地震発生の危険が高まっていることから、災害看護に対する期待が大きい。各大学が所在する行政機関等と連携を図り、実績を積む中で、発信力を高めていただきたい。 ・「災害」看護という看板を後で下ろすことがないよう、平常時を基本としながらそれと災害時の橋渡しの視点、つまり両者の双方向性を考慮することが重要である。 			